

教えてくれ

そ奴が誰か

宮浦職場三分会新聞
「よあけ」十号から

坑底の職場のすみずみから
おさえられた者の声がする
腰にはつたサロンのパスのにおいは
悲しみのにおい、怒りのにおい
おさえられた者の苦しみのにおい
そこら 人間が
人間らしく生きるための炎がもえ出すのだ
教えてくれ
どうして俺がこんな体になつたのか
労働強化と合理化をたくらむ奴は
いったい誰なのか

ひきつる痛みの中から
俺の苦しむ胸の奥深くから
フツフツとわきあがる大きな怒り
合理化の犠牲にされ続け
みずから体にも打ちつて闘いを求める
労働者の
大きな怒り
筆名はありませんでした

職場新聞「よあけ」の一面



同じくその二面



まずいろんな書体の字が、書きつらねてある
職場新聞の「よあけ」。苦しみのあとがしの
ばれる。本所の一職場新聞も同じ努力をして
いる。大いに学ぼう。

統一目指し活動強化

宮浦、職新編集委員が交流

現在三池労組の組織内で、職場新聞活動
に対する関心が高まり、またその活動が活
発になつてきている。春闘にせよ、そのほ
か採炭合理化反対闘争などのあらゆる闘
いにせよ、それらをふり返るとき、何はお
いても一日も早く職場における労働者の力
を統一することがのぞまれているが、その
ために職場新聞活動がいよいよなくてはな
らないものとなつてきているのは、当然なこと
である。

一日も早く職場新聞活動を見る
べきものとするために、宮浦指導
部は去月十九日の日曜日職場新聞
編集委員会を開いた。十五、六
人の編集委員が、体の疲れにム
チを加えて集まり、お互い同志
としての交流を深めた。

へたでも真心にめて

人間形成活動をたすけ、苦しみ
に負けず、労働と連帯に誇りをもち
勇気と正義感に奮起し人間として世
におくべきものとする
ことが大切である。

三池労組は昨年ひき続き、今
年も夏季児童対策をより組織的に
実施することになり、三池主婦会
と話し合いながら準備には
いっている。

児童対策は「大多数の三池の家
庭が共働きのため、折角の夏休み
も子どもたちにとっては『カギッ
子』となり、したがって日常の規
律ある生活が乱れ、不良化の心配
は大変なもの。」「(昨年の指導
の「一節」という事情が求めている
のは、指摘するまでもない。
しかし三池労組としての児童対
策は、本来このような消極的な姿
勢にとどまるべきではなく、もっ
と積極的に「子どもたちの正しい
誕生し、いかに続いて活動してい
る馬渡子ども会は別として」

「一方、そのような子ども会運動
を助けること、闘いのために子
どもの生活を組織的に守ることを
せまられ、組合も(地域分会と
も)対策をすすめてきた。

三池闘争弾圧のために、大牟田
に集中してきた警察隊によって各
幼稚園が占拠されると、組合はこ
んなに園児のために、青空幼稚
園運動をすすめた。これらの対
策は、全国からかけつけてくる学
生らの暖い連帯の手によって、次
の段階では「学習指導」「生活指
導」「子ども会活動指導」などと
豊かなものになり、まさに労働
運動による教育運動にまで発展を
遂げていった。

このような教育運動・児童対策
また子ども会運動は、残念ながら
その後退した。だがそのころ三池
の子どもにさしのべられた連帯の
手はいまもついでにあり、子ども
会も生気をとりもどす日を待ちな
がら依然として生き続けている。

中でも馬渡子ども会がちゃんと
した組織と活動を見せ、子どもた
ちはその可愛らしい口で
馬渡町の子ども会
子ども同志の相談で
.....

みんな仲よくにこにこ
明るい子どもになりましょ
うといながら、歩きつづけてい
るのだ。

組合が、夏季児童対策を実施
するに際し、改めて過去の経験と
現実の動きをふり返って見ること
が急務のように思われてならない
ために、とにかく出し続けること
だ」と意気統一した。

目をさました
現在宮浦指導部には、はいん
と(四分金)「よあけ」(三分
金)「どんがらし」(五分金)
「なき」(七分金)「もっこ
す」(八分金)「地蔵」(二分
金)などがある。

中でも「よあけ」は特徴的で
このような職場新聞の典型とい
い得る一つの形を創り出した。
(別項の紙面参照のこと)
「切り切りが決してうまくない
それどころかまたまたへたな人々
が、たとえその一面をつくりあげ
るにも、寄つてたかたて切つてい
る。」

特徴的な「よ
あけ」に学び
その後に見られるこれらの結果
が示しているように、宮浦指導部
における職場新聞編集委員会は、
やはり成功したといことができ
よう。

第一、第二を問わず、一人でも
多くの仲間が寄つてたかたて
「俺たちの新聞」こそが、職場新
聞の命なのだ。さしすめ「よ
あけ」からは学ぶところが多い。
なお宮浦指導部の編集委員会
に先だって、四山では職場新聞活
動者たちがまったく自主的に集ま
って、ガリ版自主講習会を行ない
これからの職場新聞活動にそな
えた。

激励の声に感激

主婦会三川がアンケート

三池主婦会三川支部の新聞「主
婦会三川」は、さきごろ「私たち
の新聞がどう読まれているか」
について、アンケートを行なつ
た。それがこのごろ集約された
が、四百二十四枚の寄せられた回
答によれば、「主婦会三川」とい
う新聞が思ひのほか熱心に読ま
れていることがわかり、格別同新聞
づくりに関係している主婦たちを
感激させている。

さて、四百三十四枚寄せられた
回答について見ると、「毎号必ず
読んでいます」「二百三十五人」「投
稿して見たいと思う」「百八十八人」
「発行が待ちどおしい」「百五十一
人」などの結果がでている。なか
には「ほとんど読んでいません」
「二十九枚」「面白くない」「三
人」などの意見もあるが、
書きこまれてくる声の中から、
これはと思うものを拾って見よ
う。

「アンケートまで取って努力
される関係者に感謝します。」
「今後永く続けて下さい。」
「はなはだ恐縮です。読んで
いなかったもので、今後は必ず読む
ようにします。あしからず。」
「主婦会三川の愛読者が、日
々ふえていくことをあちこちで聞
きます。最初は一・二回読んでい

る。マンガも、決して上手だとは
いえない。
記事だって、文章だって、これ
またむしろタクソの寄り集まり
とさえいえるだろう。が、それぞ
れの熱意と創造力を生かし、集中
し、心をこめてつくりあげている
ので、その隅々に至るまで職場の
苦しみと喜び、働く者の休
がプンプンにのびている。
だからこそこの職場新聞は、国
民の前にいよいよ重大な問題をつ
きつけてきた「安保問題」をさ
え、十分職場というものの胃袋で
そしゃくして記事化する能力もも
っているのだ。いわく「安保
繁栄といふけれど」。

第一、第二を問わず、一人でも
多くの仲間が寄つてたかたて
「俺たちの新聞」こそが、職場新
聞の命なのだ。さしすめ「よ
あけ」からは学ぶところが多い。
なお宮浦指導部の編集委員会
に先だって、四山では職場新聞活
動者たちがまったく自主的に集ま
って、ガリ版自主講習会を行ない
これからの職場新聞活動にそな
えた。